

1 研究主題

子どもたちが楽しく音楽活動に取り組む手だての研修を深める。

2 研究の概要

研究主題をもとに、授業研究、器楽実技講習、合唱指導・実技講習の3回の研修を行い、楽しい音楽活動への手だてを探った。

3 研究の実際

(1) 授業研究について

6月、五泉市立巢本小学校において、小出貴子教諭による授業をもとに、授業研究を行った。

授業者は、児童の音楽づくりの経験を増やしたいという願いを強くもちながら、リズム伴奏づくりを通し、拍を意識して正しい長さの音符や休符を記譜し演奏すること、主旋律を引き立てるリズムの選択や打ち方の工夫をすることをねらって授業を行った。そのため、音符や休符のリズムカードを使用させ、リズムの検討や練習を取り組みやすくさせるとともに、ワークシートに拍の線を入れ、各パートのリズムを合わせやすくするという手だてを取り入れた。



リズムカードと拍の線が入ったワークシートを使うことにより、どの児童もリズムを作ることができ、自分が考えた楽譜を見て練習したり直したりする姿が見られた。また、友達が考えた楽譜を見ながら、リズムを確かめたりアドバイスしたりする様子も見られた。

協議会では、自分たちが表現したい曲のイメージを具現化させてからリズム伴奏づくりを行うとよいのではないかと、考えたり話し合ったりする時間をもっと多くとるとよいのではないかと等意見が出された。さらにリズム伴奏づくりを楽しめるようにするための考えが話し合われたことで、今後の授業実践へ生かせる有意義な研修になった。

(2) 器楽実技講習について

9月、金子順爾様を講師に迎え、器楽実技研修を行った。カホンという打楽器について、演奏方法や授業での活用の仕方を学んだ。リラックスした姿勢で、誰でも気軽に演奏できるので、児童も取り組みやすいことを実感した。また、打ち方によっていろいろな響きを出すことができるので、リズム遊びやリズムづくりに活用しやすく、前回の授業研究と合わせて、音楽づくりの授業への生かし方を考えることができた。

(3) 合唱指導・実技講習について

10月、五泉市立十全小学校において、森祐子様を講師に迎え、合唱の研修を行った。前半は4・5年児童による「ひろい世界へ」の合唱を指導していただき、後半は部員自身が歌いながら指導を受けた。

森先生は、児童が分かりやすいように比喩表現を豊富に使い、歌い方を指導された。体全体を使った息の出し方は「風船のように」という表現、のどの開け方は「ストローを吸うように」という表現を使うなど、イメージしやすい指導方法であった。そのため、森先生の言葉のとおり、児童は伸び伸びと歌うことができた。歌う楽しさを味わわせながら、歌う技能を向上させる指導方法について、具体的に教えていただくことができ、今後の合唱指導に生かしていくことを部員全員で確かめ合った。

4 成果と課題

3回の研修を通し、部員同士が意見交換や情報交換を行ったり、講師による指導をいただいたりして、授業改善への新たな手だてを見つけることができた。今後の授業の糧とし、子どもたちが楽しく音楽活動に取り組む姿を目指していきたい。